

品質性能試験報告書

試験名称	枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の性能試験						
依頼者	株式会社 栗山百造						
試験項目	引張						
試験体 (依頼者 提出資料)	1. 接合金物 名称：木造建築用柱脚仕口金物 商品名：2×4用クリホールダウンⅢ KHDⅢ-30・35 用途：柱脚の仕口に使用する金物（アンカー型） 寸法：40×48×195mm 2. 接合具 木ねじ：クリ鍋ビス7×120mm, 8本使用 アンカーボルト：六角ボルトM16×260mm たて枠取付用：太め鉄丸くぎCN90（JIS A 5508）, 14本使用 3. 枠組 たて枠：枠組壁工法構造用製材, JAS 甲種枠組材2級, 樹種；S-P-F, 寸法；38×89mm, 3本 4. 試験体数7体（うち1体は予備試験体） 参照：図-1～図-3（試験体の形状・寸法）						
試験方法	「2007年 枠組壁工法建築物構造計算指針」（発行：社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第V編「材料及び接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の1.2.3「接合部の基準許容応力及び基準終局耐力並びに基準剛性（繰返し加力接合部試験によるもの）」に準じて行った。その詳細を図-4に示す。						
試験結果	試験体		試験許容応力時		試験終局耐力		試験剛性
	記号	番号	(Py) kN	(δy) mm	(Pu) kN	(δu) mm	(K) kN/cm
	KHD-35	0	38.2	6.8	56.5	30.0	56.2
		1	45.6	6.3	69.1	30.0	72.4
		2	42.3	5.2	64.9	30.0	81.3
		3	46.1	6.6	65.9	30.0	69.8
		4	45.2	5.8	66.3	30.0	77.9
		5	44.0	5.4	67.2	25.8	81.5
		6	40.5	4.6	62.2	30.0	88.0
	平均	44.0	5.7	65.9	29.3	78.5	
標準偏差 s		2.17	0.74	2.31	1.71	6.64	
5%下限値		38.9	—	60.5	—	—	
基準値		基準許容応力 25.9		基準終局耐力 60.5		基準剛性 78.5	
(注) 基準許容応力は試験許容応力の5%下限値に2/3を乗じた値であり、基準終局耐力は試験終局耐力の5%下限値である。また、基準剛性は試験剛性の平均値である。なお、5%下限値は次式より求めた。 $5\% \text{下限値 TL} = \chi - k \cdot s$ ここに、 χ ：試験耐力の平均値、s：標準偏差、k：2.336 (n=6) 参照：表-1 (2/3Pmax時, 最大荷重時及び破壊状況), 図-5 (荷重-変位包絡線の比較) 図-6 (荷重-変位曲線, 包絡線及び完全弾塑性モデル), 写真-1～写真-6 (破壊状況)							
試験期間	平成22年 9月13日及び14日						
担当者	構造グループ 統括リーダー 高橋 仁 試験責任者 守屋 嘉晃 試験実施者 森田 薫, 宮下 雄磨						
試験場所	中央試験所						